

---

# 神の慈悲と永遠の罰

緋炎

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

神の慈悲と永遠の罰

### 【Nコード】

N5558A

### 【作者名】

緋炎

### 【あらすじ】

最終兵器彼女のちせとシュウジのストーリー

（前書き）

<font size="2">最終兵器彼女の最終話、宇宙に行った二人の後です。物語を作るのははじめてなので、自信はないけど頑張ります。</font>>

「ちせ…」

「シュウちゃん、どうしたの？」

「は…」

「は…？」

「腹減った…」

地球を後にして一週間…僕は飲まず食わずの断食生活を送っていた。  
何故かって？もちろん食べ物も飲み物もないからだ…

「ごめんなさい、シュウちゃん…」

「本当になんもないのか？」

「えっと…機械ならいっぱい（^^）」

「食べねえだろ…」

「ごめんなさい…」

このままじゃ僕は死ぬ…近いうちに死ぬ…でも、ちせを置いて死ぬ  
なんて僕には…

「やべ…目がかすんできた…」

「シ、シュウちゃん！頑張って！」

ちせが泣き出した。また僕はちせを悲しませているのか…

「……………死ん……………で…た…まる……………か……………」

その時…

「…死なせるわけにはいかないな…」

突然、僕の頭の中に声が響いた。それと同時に、空腹が僕の中から

消え去った。

「…え？誰だ？」

「シュウちゃん？」

ちせが不思議そうな顔をしている。ちせには聞こえないのか？

「人間よ、死ぬにはまだまだ早いぞ？」

突然、僕とちせの前に、見た目15歳ぐらいの女の子が現れた。

「君は誰だ？なんでちせの中にいるんだ？」

僕はこれまでにないほど驚いた。

「私は…？えつと…人間で言つと…神様だったかな？私が人間を作つたと言えば早いか。」

「神様！？なまらちつこいねえ！」

「いや、ちせと同じようなもんだろ？背丈は…」

地球にいたころの僕なら全然信じなかっただろう…でも今は、信じられる…不思議な気分だ…

「で？神様がオレ達に何の用だ？」

僕はできるだけ強気で言ってみたが、声が震えていた。

「怯えるな人間よ、私は、お前が罰を逃れようとしていたから、それを阻止するために現れたまでだ。」

「罰！？」

ちせが素早く反応した。

「なんでシュウちゃんまで？罰なら私だけで十分だべ！？」

神様は無表情で言った。

「お前達は地球にいた全ての人間の、その罪を償うために生かされたのだ。」

「そんな…理不尽な！」

「しかし、人間とは脆く儂い物だ…十分に罰を与えるには時間が短すぎる…」

神様は相変わらず無表情で、僕らを見ていた。が、不意に僕の胸の心臓のある方に触れた。

「汝に、永遠の時を…」

神様はそう言つて、僕に呪文を唱えた。

「な…何を…？」

僕の体に変化は見られない…が、とても不安な気持ちになった。

「これでお前は死ぬ事は出来なくなった。あとは…」

神様はちせを真っ直ぐ見据えた。

「お前はいますぐに地球へ戻れ、少しばかり罪を軽くしてやろう。」

ちせは目を丸くして驚いている…僕も驚いた。

「…いや、やはり私が…」

神様が目を瞑ると、ちせがグラグラと揺れ、目の前に地球が見える位置にあった。

「あ…ああ…」

僕もちせも、あいた口が塞がらない。神様の力に驚いたのもあるが、地球の現状を見てさらに絶望した。  
地球は…真っ赤だった。

「あんなに美しいかった、私の最高傑作をこんな姿に変えた罪だ…」  
無表情だった神様が、悲しそうな顔をする。僕らは、何も言えない…

「赤く染まりし真紅の星よ、汝のあるべき姿へ戻れ。リバーズ！」  
神様が呪文を唱えると、地球はたちまち元の美しい姿に戻った。

ちせは復活した地球に降りた。海に町に山…全てが元のままだ。

神様はちせに呪文を唱えた。

「機械に侵されし人間よ、汝のあるべき姿に戻れ。リバーズ！」

ちせが光に包まれた。あまりの眩しさに僕は目を背けた。光がおさまると、そこにはちせが立っていた…

僕はちせを抱きしめた。心臓が…動いてる…脈がある！

「ちせ！人間に戻ってるぞ！心臓、動いてるぞ！」

「シュウちゃん！シュウちゃんシュウちゃんシュウちゃん！！！」

僕らは泣いた。この数ヶ月、一度もなかった嬉し泣きだ。人間に戻

れた…夢にまでみた人間だ…

「人間よ。」

僕は振り返った。神様がちせに呪文を唱えようとしている。

「汝に永遠の時を…」

僕と同じ呪文をちせに…

「お前も死ねない…お前達はこの地球で永遠に生きる、それが罰だ。」

僕は喜びと悲しみの狭間にいた。永遠に生きる…実感はなかった。

「最後だ…汝のあるべき姿を表せ…リバーズ！」

北海道全域が光に包まれた…人が…死んだ人が蘇ったんだ！

「罰を軽くした。蘇ったのは北海道の人間だけだが…」

そう言うと、神様は光の粒子になって消え始めた。

「待ってくれ！なんでオレ達に…」

オレ達に…続きは出て来なかった。全てが現実からかけ離れていて、うまく整理が出来ないでいるんだ。

「ごめんなさい神様、ありがとうございました！」

ちせが頭を下げたので、僕も下げた。

「償いが終わったら、また会おう。」

消える直前、神様は笑った。

僕らは永遠に生きる。蘇ったとはいえ、人間は死ぬ。でも僕らは死  
ない。

いつか、

償いが終わるその日まで、

僕らは恋していく

E  
N  
D

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5558a/>

---

神の慈悲と永遠の罰

2010年10月11日01時19分発行